

恩智川を使いこなす 35のアイデアブック



はじめに

恩智川流域に住まう人たちが、川に愛着を持って接することで川を綺麗に保つことができます。「恩智川クリーンリバープロジェクト」では、川を綺麗にすることに合わせて、川や周辺のまちにある魅力を活かした活動を検討実施することにより、多世代の人が参加できる活動を進めてきました。

本誌は2部構成になっており、
活動のアイデアを生み出す手法を【入門編】
恩智川で実施できるプログラムを【実践編】
とし、活動アイデアの検討と実施の手法を紹介しています。

入門編

恩智川のある地域にふさわしい活動アイデアの生み出し方や、提案されたアイデアを実施していく手法をまとめた章です。

- ① 恩智川(一級河川 寝屋川水系) …………… P.4
- ② 大阪府と四市の河川清掃の取り組み …………… P.6
- ③ 市民参加型ワークショップって? …………… P.10
- ④ 美化活動プログラムの生み出し方 …………… P.14
- ⑤ これまでの美化活動 …………… P.18

恩智川 (一級河川 寝屋川水系)



恩智川の今

恩智川は柏原市北部の高尾山麓を源に持ち、柏原市、八尾市、東大阪市、大東市と南部から北部に向けて流れ、大東市の住道駅前で寝屋川に合流する延長15.4kmの一級河川です。かつて大東市に存在した深野池に注いでいた恩智川ですが、1704年の大和川付替によって、寝屋川と合流する事になりました。かつてから流域で度々洪水を引き起こしており、1973年から1977年にかけて恩智川治水工事が行われました。結果、川岸の護岸化、川床の掘り下げ、川幅の拡張により、流水能力が向上しました。また、東大阪市南部に一時的な貯水機能を持つ恩智川治水緑地の整備がなされ、一層の治水能力が備わりました。

恩智川周辺では、大東市に大東市歴史民族資料館があり、恩智川を含めた北河内地域の治水資料が保管されています。

恩智川にゴミがたまってしまいう現状

恩智川の周りの土地は、新興住宅地、工場が多く、人々の生活、労働の場となる景観が広がり、都市化が進んでいます。そのため、川の水が汚れてしまっています。また川底が浅い場所や流れのゆるやかな場所には、ゴミがたまりやすい環境になっており、景観的にも良くない状況が広がっています。ゴミの中でも特に目につくのがペットボトルや買い物のビニール袋。もともと自然界には存在しない素材でできたこれらのゴミは、自然分解されることなく、長い期間、その場に存在し続けます。恩智川に対するゴミのポイ捨てだけでなく、恩智川の支流から流れ込むゴミもすくなくありません。恩智川のゴミ問題は恩智川だけの問題ではなく、大阪東部の人たちが協力しなければ解決できない問題へと膨らんでいます。

まちの裏側になってしまった恩智川

ゴミが捨てられた恩智川。その景観が広がれば、恩智川にさらなるゴミを誘発するという現実も、残念ながら発生しています。ゴミがたまった恩智川に、新たに「ゴミを捨てても大丈夫だろう」という人間の油断が生じ、さらにゴミが捨てられるという負のサイクルが発生しています。このことによって、恩智川は、周りのまちからますます背を向けられる結果に繋がりと、本来人々に愛着を持たれる川であるはずが、まちの「裏側」になってしまいます。愛着ある公共空間として、ゴミが発生した後の対処だけでなく、ゴミの発生を未然に防ぐ防止策、人々に恩智川が生活環境の一部として活用してもらうための方策を生み出すことが必要です。

大阪府と四市の河川清掃の取り組み



恩智川の美化に向けた行政の連携

大阪府と流域四市（柏原市、八尾市、東大阪市、大東市）は、平成24年度に、恩智川の美化のために、行政間連携することで合意しました。恩智川は大阪府に管理された河川ですが、そこで住まう人たちの生活は、それぞれの地方自治体のサポートも必要です。大阪府と流域四市の連携による恩智川美化の取り組みは、生活者、とりわけ美化活動を住民活動として展開している人にとっては、有効なサポートです。

大阪府 × 柏原市 × 八尾市 × 東大阪市 × 大東市

流域住民の美化に対する意識向上に向けた広報活動

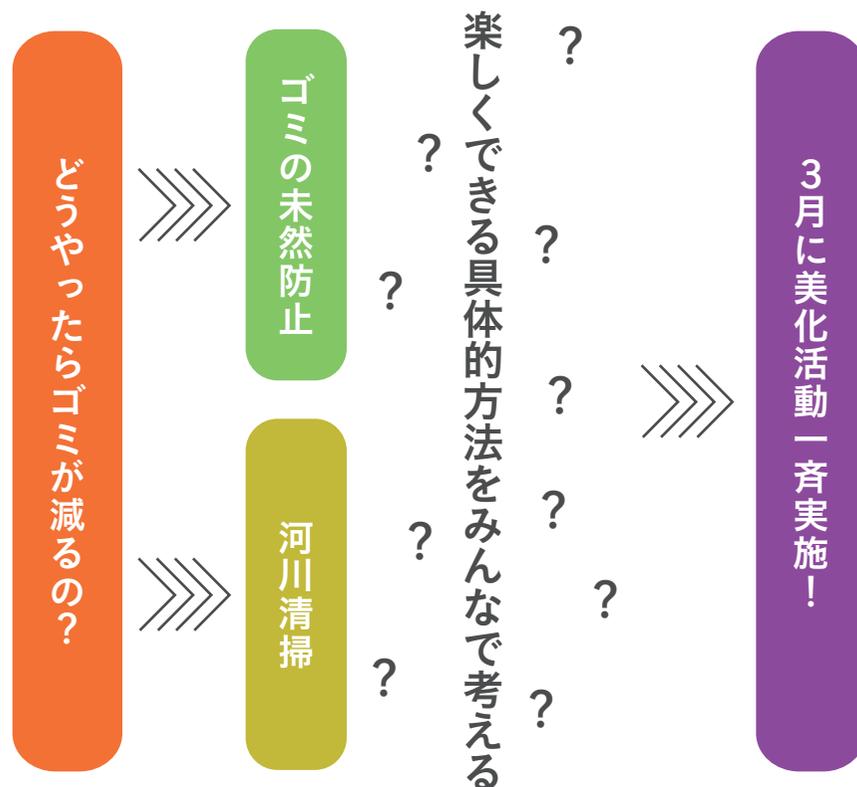
流域住民が主体となった流域一斉清掃の支援

浮遊ゴミ啓発装置の運用

恩智川クリーンリバープロジェクト

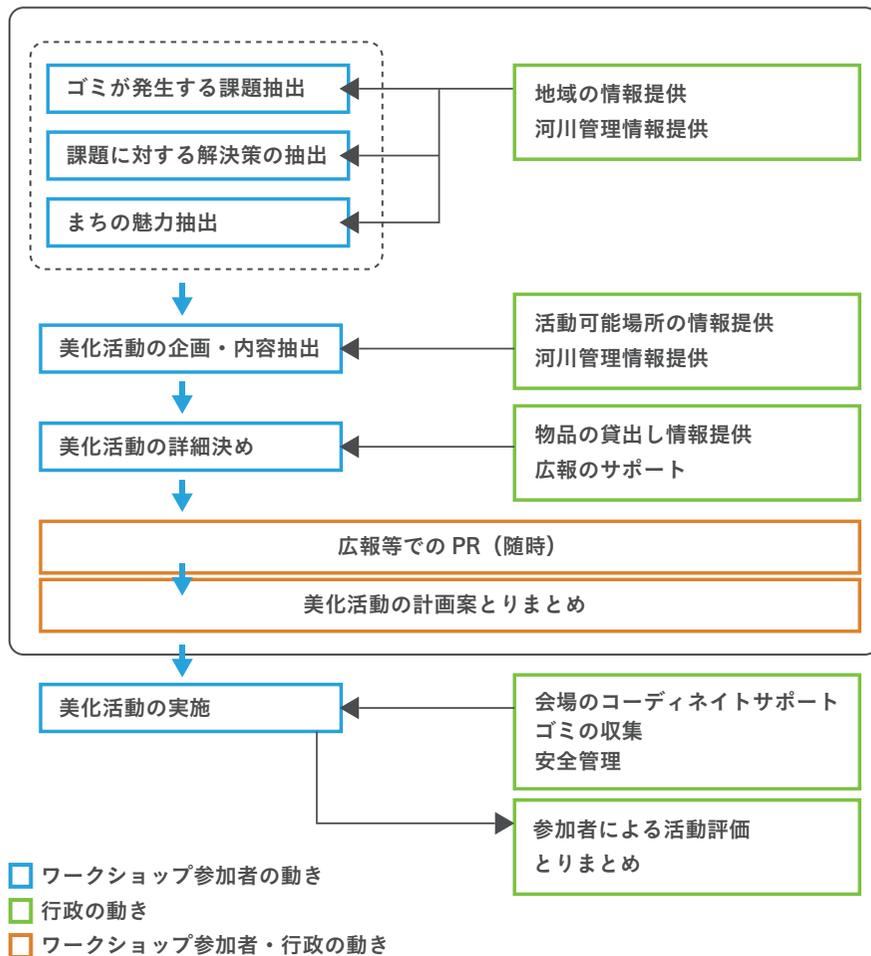
大阪府と流域四市（柏原市、八尾市、東大阪市、大東市）では、平成25年度より、「恩智川クリーンリバープロジェクト」と称した、恩智川流域を生活圏に持つみなさんの美化意識を向上させるための方策を府民で考え、実施するワークショップの取り組みを始めました。

恩智川のごみ問題の解決のためには、発生したごみに対して清掃をしてきれいにするだけでなく、ごみを発生させないための人々の意識づくりも求められます。「事後対処」と「未然防止」。この2つに対し、府民が楽しく手軽に展開できる府民プログラムは何かを、府民の人たちが話し合い、共有し、実施する場を展開し、四市で述べ約400人の府民が参加しています。



府民のアイデアを出す方法をデザインすること 府民のアイデア実現をサポートすること

大阪府と流域四市の連携した取り組みは、行政主導ではなく、府民が生活者として主導できるためのサポートです。府民が美化意識向上のためのアイデアをどうやったら出せるのか、楽しく発想できる仕組みをデザインし、アイデアを実現するための物的、人的、広報的支援を展開しています。

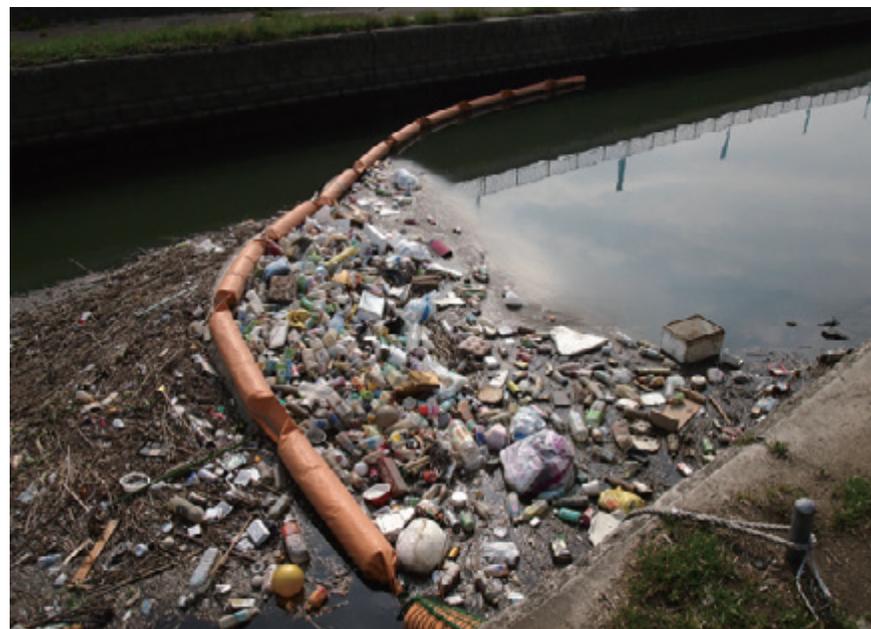


浮遊ゴミ啓発装置

平成24年度より府市の取り組みとして、ポイ捨てによる浮遊ゴミの現状を流域住民の皆さんに知ってもらうため、浮遊ゴミを滞留させるネットを、浮遊ゴミ啓発装置として、柏原市の法善寺橋上流、八尾市の八尾新橋(R170)下流、東大阪市域の加納東公園前の3カ所に設置しています。現状では、設置しているネットを住民の方々に普段の生活の中で見ていただくという活用方法になっています。

そのため、現段階での実際の効果としては、「これだけゴミが多いんだよ」という啓発になる一方で、まちの景観を壊していることも事実で、府民に主旨が伝わりにくい状況なものも否めません。

府民の美化意識向上に向けての方策として、清掃活動以外に、モラル向上のための環境教育を行うことはとても有効な手段です。浮遊ゴミ啓発装置の活用方法として、浮遊ゴミ啓発装置を一つの教材として捉え、環境教育プログラムに組み込むことが今後必要となります。



市民参加型 ワークショップって？



少人数でお互いの想いをシェアする

最近、いろんな会議や、企業、学校でワークショップという方法がよくとられるのを目にします。ワークショップって一体何なのでしょう。ワークショップとは、「話し合いの場」です。

特徴は2つ。1つは大人数で口の字型の机で長時間話し合う会議と違い、少人数で行うところ。もう1つは、物事を話し合うための手順がコーディネーターによって用意されているところ。

テーブルを囲む5〜7人程度の人たちが、お互いの考えや想いをしっかりお話できることで、テーブルを囲む人たちの強いコミュニティが形成されます。お互いの考えや想いの同じところ、違うところを、落ち着いて認識することで、お互いをリスペクトしながら話し合いを進めることができます。それぞれ年齢、趣味など違う人たちですが、美化意識を向上したいという共通の意識を共有できていることは参加者の強みです。

参加している人が高い当事者意識を持てること

多様なメンバーの主体的な参加なくしては、ワークショップは成り立ちません。参加するしないを決めるのも、どれくらい熱心に活動するのかを決めるのも自分です。参加メンバーが、常に当事者意識を持ちながら、ワークショップを一緒になってつくり上げていきます。

ワークショップでは、発言しにくい雰囲気にするのは厳禁。ルールとして、

- ・他人の意見を否定しないこと
- ・思いついたことを恐れずどんどん発言すること
- ・人の話を最後まで聞くこと

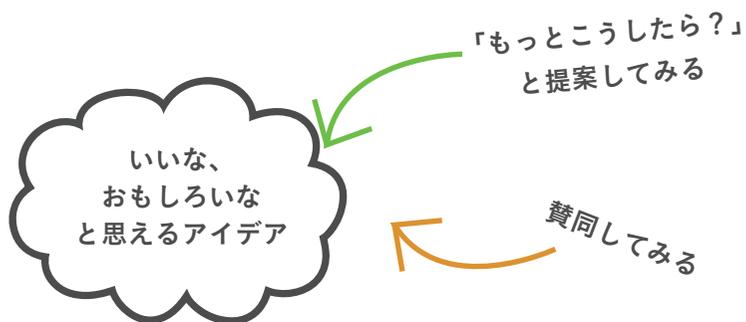
自分と違う意見が出ることは、自分にはない発想や想いを知る大きなチャンスなので喜ばしいこと。全員の想いを最後まで出しあいます。



他人の意見に乗ってみることで1人では得られない体験

ワークショップは少人数のため、自分の意見、他人の意見に対して、十分時間をかけて議論することができます。

もし、自分の意見が出なくなってしまうたら、他人の意見に乗ってみることができるのもワークショップの醍醐味です。他人の意見を否定するのではなく、よりよくするための方策を考えることは、1人では絶対に得られない体験です。



行政と府民の新しい関係の構築へ

ワークショップで物事を決めるということは、住民主体で決めるということ。これは、これからの少子化、高齢化、人口減少、歳入低下など、これまで日本が経験したことのない社会に対する有効な方法です。

府民の生活を安全に、快適に、美しく展開するために、これまで行政は様々なサービスを行ってきました。しかしながら、色んな社会問題が生まれつつある今、これまでと同じ価値観を持ち、これまでと同じサービスをすべての局面で展開することは難しくなるでしょう。

バブル崩壊や、震災などと同じように、対処方法の教科書がない社会を迎える今、自分たちの生活を自分たちで見直すという自治力を府民が持って、物事を展開することはとても重要です。新しい行政のサービスとして、府民が集まり、物事を決めていく場の提供、話の進め方のデザイン、実行のサポートが求められます。

この恩智川クリーンリバープロジェクトでも、常日頃から自治を意識して活動されている人、そうでもない人が集まり、普段ではなかなか知り合う機会がない人同士がつながることで、人のつながりが多重的になりました。ワークショップで気兼ねなく話し合える場を設定することは、様々な世代の人、様々な志向を持つ人がつながり、自治の意識を醸成する場につながります。

美化活動プログラムの生み出し方

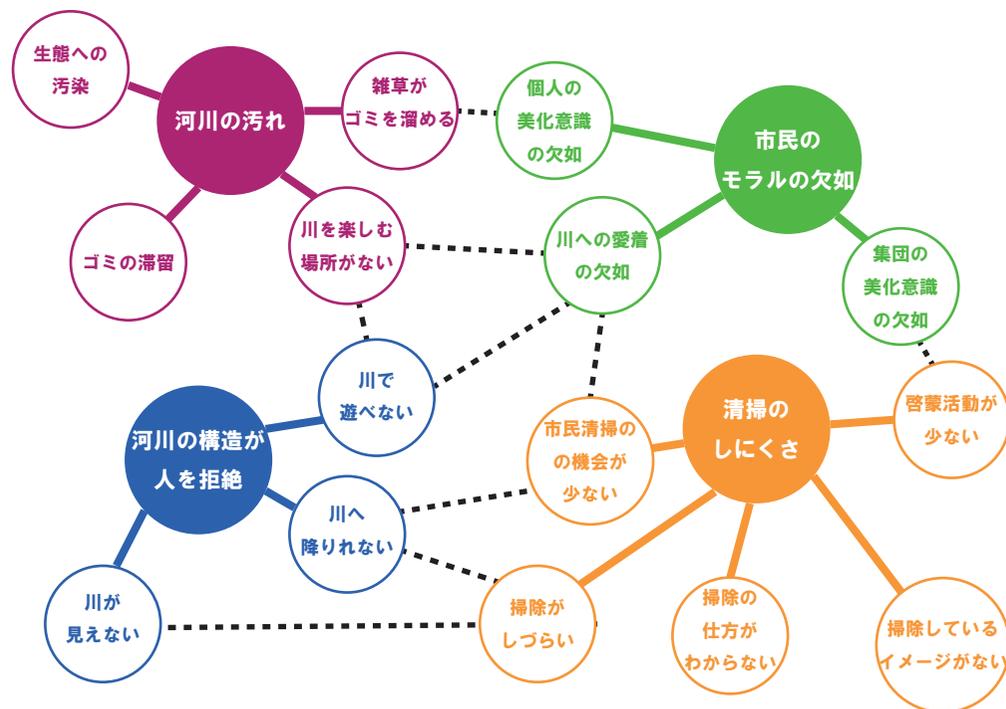


ゴミ発生の原因を考え、治療する

恩智川の美化活動にかぎらず、まちづくり活動など、公共空間で展開される府民活動は、当事者がやりたいことをやっても、それが課題の解決方法になっていなければ、それは単に趣味で終わってしまい、賛同者が増えません。

少し堅い話ですが、まずは地域の課題を探ることから始めましょう。地域の課題をみんなで探り合い、それを解決するための、まちの治療方法をみんなで発想する。それが恩智川クリーンリバープロジェクトの基本的なスタイルです。

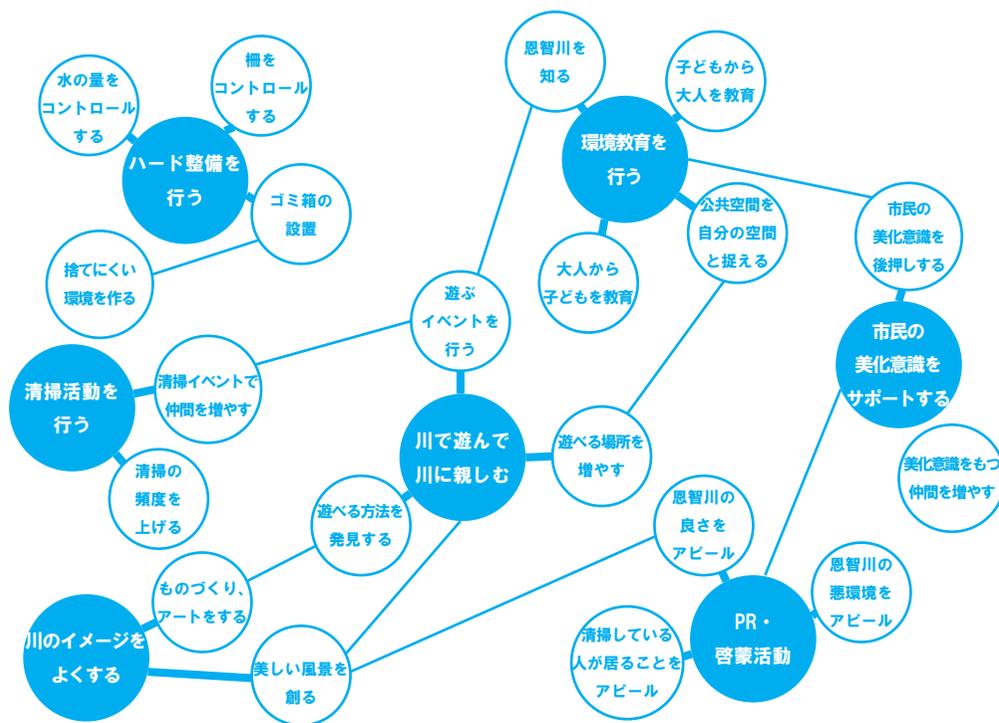
ゴミを捨てる人を非難する、怒るという考えもありますが、その人がゴミを捨てようと思った原因を探ってみると、実は、その原因は社会にあるのかもしれませんが。教育にあるのかもしれませんが。じっくり課題を見つけることから始めましょう。



恩智川クリーンリバープロジェクトのワークショップで話し合われたゴミが発生する理由

課題を解決するための対策を考える

ゴミが発生してしまう原因が、地域の課題とするならば、それに対して、府民に話し合われた府民レベルでの対策方法は、府民がしたいこと、もしくははできること。自らの手で解決できそう、もしくは、誰かの手を借りることで解決できそうな対策をみんなで考えます。



恩智川クリーンリバープロジェクトのワークショップで話し合われた恩智川ゴミ問題の課題に対する対策

活動プログラムを生み出すフロー

この一連の取り組みでは、下記の流れで活動プログラムを生み出します。自分の主観的な想いとは一方で、ゴミを捨てる人、拾う人、恩智川が好きな人、あまり気にしたことのない人など、色んな人の立場になって課題と対策を考えることが大切です。そのためには一人だけではなかなか難しく、複数人で思いつく限り話し合ひましょう。

ゴミが発生する課題を抽出

- ・ゴミを捨てやすい空間になっていない？
(河川の空間的課題)
- ・ゴミを捨てる人の気持ちになってみる
(モラルの問題、社会の問題)

課題に対してやりたい対策抽出

- ・美化意識を広めるための活動内容とは？
- ・ゴミが捨てられたあとの活動とは？
- ・ゴミを未然に防ぐための活動とは？

やりたい活動の整理

- ・やりたい活動に必要なスキルは？
- ・実行する人材はいる？

活動の準備

- ・誰に参加してほしい？
- ・その人に対する広報ツールと使い方は？
- ・活動をする上での必要な物品は？

恩智川流域美化活動

反省点抽出

- ・来てほしいターゲットに来てくれた？
- ・活動の評価時期はいつ？
- ・評価方法は？

これまでの美化活動



美化意識向上のための2年間の取り組み

平成25年度からの2年間、恩智川の流域四市にお住いの住民の方々が、自分たちで恩智川ゴミ発生の課題を話し合い、課題を解決するための方策をそれぞれ実施してきました。

清掃だけでなく、環境教育に関するもの、ゴミ自体の調査を行うもの、川の生物を調べるものなど、多岐に渡りました。

河川の清掃活動



美化活動のベースになる清掃活動。川をきれいにすることはもちろんですが、大切なのは、誰と一緒にするか。普段、川に親しみを持っていない子どもたちと一緒にいき、子どもたちとのコミュニティを形成します。



生き物調査



川は本来生物のおうち。子どもに川の大切さを知ってもらうために、子どもたちが普段見たことのない生物を川で探し、みんなで調査することで川の大切さと楽しさを知ります。

フロート調査



ゴミはどこでたまってしまうのかをペットボトルを流して調査します。

水質調査



今の川の水を汲み取り、水質の状況をみんなで診断します。

花植え



清掃だけでなく、景観をみんなでよくするための活動。おしゃべりしながらの作業で楽しく実施します。

川辺で吹奏楽演奏会



川辺がステージに変身します。恩智川の川辺を華やかな場所に变化させ、普段はない使い方で川辺の新しい楽しみ方を生み出します。

恩智川周辺のまちあるき



恩智川周辺には以外と知られていない史跡やまちな見所がたくさんあります。足を運んで知ること、普段見過ごしていた恩智川とその周辺のまちの価値が変わってきます。ガイドはワークショップに参加されている方が努めます。

その他の実施プログラム

水車等の歴史資料の展示

土のうづくり体験、植物及び野鳥の写真展、川ゴミ紙芝居、魚の調査、総合治水説明、透明度検査、土のう積み、鳥・魚等パネル展示、子どもの絵画展、まちあるき、ゴミの種類調査、ゴミの場所調査

実践編

恩智川で実施できる35のアイデアをまとめた章です。
提案されたアイデアを実施することにより、まち
や人に与える効果を紹介します。

- ① 清掃活動をしよう! P.24
- ② 川のイメージを良くしよう! P.28
- ③ 川で遊んで、川に親しもう! P.32
- ④ 環境教育をしよう! P.36
- ⑤ 情報発信をしよう! P.40

清掃活動をしよう！



世代をこえた美化意識の向上へ

川の中や川の周辺の清掃を、子どもも大人も一緒になって行います。普段入ることができない場所には「いったいどんなゴミが落ちているのだろう」ということを活動を通じて学んでいきます。こうした活動が周辺の住民や子どもたちへの周知に繋がっていきます。参加者は「次はこうしていこう！」「もっと子どもたちに体験させてあげたい！」というようなアイデアを出し合い、自分たちのまちにある川を綺麗にし、美化意識の向上を目指します。

自分からはじめよう

まずは自分が得意なことや日常生活の中で気になることから始めましょう。最初は小さな活動から始まるかもしれませんが、少しずつ賛同してくれる仲間を増やしていくことで、普段恩智川を意識していなかった人も、自然と「何かやっているな」という気づきに変わっていきます。ひとつの行動、ひとりの意識の変化が恩智川を綺麗にしていきます。



子どもたちと清掃をしよう

これからのまちを元気ある場所にしていくのは、次世代を担う子どもたちです。普段降りることのできない水辺での清掃は、子どもたちにとって、きっと特別な体験になるでしょう。魚が住んでいることやゴミがたくさん捨てられていること、水辺に降りてみて初めて気づくことが、恩智川を知り、大切にしていかなければならないという愛着心へと変わっていきます。



親子で参加できる清掃をしよう

親子のコミュニケーションの場にしましょう。清掃にルールはありませんが、子どもには分からないことが沢山あるでしょう。気軽に聞ける親と一緒にいることで、安心して活動に参加することができます。川で見つけた発見、危険な場所を教えることで、子どもの成長にもなります。



03

ゴムボートを活用しよう

川ならではの清掃方法を楽しみましょう。水分を含んだゴミを集めるととても重たくなってしまいます。ゴムボートが一台でも用意してあれば、清掃が楽になります。ボートがあることで、周りから見ると楽しそうな風景をつくることができます。清掃が終われば、子どもたちを乗せて遊んであげるのも楽しみになるでしょう。



04

参加者同士で連携しよう

美化活動には、日頃から地域の清掃をしているボランティア団体、恩智川流域の小中高生、企業などが一同に集まり活動に取り組みます。美化活動実施前に団体紹介することで、普段は繋がることのない人や団体を知り、ネットワークをつくる場として活用しましょう。



05

定期的な清掃をしよう

定期的な活動見せることで、新規に入りやすい環境をつくることができます。定期的な活動は、川を何度も見ることにもなり、ゴミの変化や環境の変化を感じることができます。変化を新たな活動へと結びつけることが、より一層恩智川を綺麗にすることに繋がります。

06

支流の清掃をしよう

恩智川には、いくつかある支流からのゴミの流れ込みがみられます。支流にはゴミが溜まりやすいポイントがあり、恩智川に流れ込む前に、取り除くことは効果的です。恩智川に流れ込んでしまう前に、少しでも多くのゴミ拾うことが、他の市へのゴミの流入を防ぐこととなります。

07

川のイメージを良くしよう！



美しい環境をつくり続けていく

恩智川ではどのような活動が行われているのか、生物や植物の種類など、まだまだ知られていない魅力がたくさん詰まっています。川が汚いというイメージを無くしていくためには、汚くならない環境をつくり続けていくことが大切です。菜の花や桜など季節を感じることで、地域の魅力を自分の目で知っていくこと、地域の人々が活躍できる場をつくっていくことで、恩智川を訪れる人を増やしていきましょう。目で見て、肌で感じるのが気持ち良いと思える環境をつくっていくことで、訪れる人々の意識が良いものへと変化させていくことができます。

🌱 花を植えよう

河川にゴミを捨てにくい環境をつくるために、綺麗に咲く花を植えましょう。花を傷めず、綺麗な状態を保とうとする気持ちから、ゴミを捨てにくい場所づくりを目指します。季節の花が咲いていることで、清掃の時以外にも、花に水をあげたり、雑草を抜きに来たりと、花をメンテナンスすることで、恩智川を見にくるきっかけにもつながります。



08

👤 まちあるきをしよう

恩智川に愛着を持ってもらうことは、川を清掃することや川で遊ぶことだけではありません。少し視野を広げて、恩智川のある周辺地域のまちを楽しむ取り組みをしてみましょう。昔から残る恩智の歴史をめぐる歴史散策、季節によって美しく咲く花をめぐる自然散策など、テーマのあるまちあるきにすると興味を持って参加してくれる人が増えるでしょう。



09

♪演奏会をしよう

清掃が始まる前に野外で演奏をすれば、周辺住民や歩行者に、活動に興味を示してくれる人が増え、集客力の向上が見込まれます。

また、周辺地域で活動する高校生や大学生、団体にとっての発表の場にもなります。



10

🐦野鳥や魚が多く棲んでいることを知ってもらおう

鳥が飛んで来るといことは、魚が生息しているということです。川にはカモやシラサギ、カワセミなどが訪れています。また、メダカなども多く生息しています。こうした魅力を周辺地域や近隣の学校などに伝えていくことで、恩智川にはたくさんの生物がいることを学び、生物環境に対する意識を育むことができます。



11

✿花見をしよう

恩智川沿いにはたくさんの桜が立ち並んでいます。風が吹くと川に桜吹雪が舞い、春には多くの方が訪れています。清掃だけではなく、周辺住民の交流の場にすることで、その場所に愛着を持つことができます。また、桜のある川の景色を守っていこうという意識を持つこともできます。



12

🔬水質研究の場にしよう

清掃活動を通じて、恩智川の水が綺麗になっているのかわかるために、近隣大学などに協力を得て、研究の場にしましょう。数字として成果に見える形になると、次はどういった対策を打てばより恩智川が綺麗になるのかを考える参考になります。大学との連携により、学生とともに活動することも期待できます。

13

☀️季節に合わせて企画をしよう

清掃をすることだけでは、マンネリ化してしまい、継続性が乏しくなってしまう懸念があります。恩智川流域には、草木があり生物が生息していると、豊かな自然環境が存在しています。季節の行事と合わせて、イベントを企画することにより、楽しみを増やし、参加者の窓口を広げることができます。

14

川で遊んで、川に親しまおう！



暮らしのすぐそばに自然があることに気づく

水辺には魚が棲み、草花が自生し、自然豊かな恩智川にはたくさんの楽しみ方が期待できます。世代に合わせた自然環境の楽しみ方を提案することにより、これまで川にふれてこなかった人たちに、「楽しい場所だから行ってみたいくなる」という思いをもってもらうことができます。自らの手で自然環境を体験することで、今まで知らなかった発見を見つけることができるかもしれません。身近な自然に関心を持つことで、川を守ろうという意識を育てていきましょう。

生物観察をしよう

普段は河川敷まで降りることができないので、生物が棲んでいるかが分かりにくいですが、メダカ・おたまじゃくし・ザリガニ・ヤゴ・カメなど様々な生物が暮らしています。数日前に川に罾をしかけておくことで、水辺の生き物を捕まえることができます。生き物が暮らしているから、ゴミを捨ててはいけないということを知り、環境への意識を育てましょう。



15

リバーギャラリーをしよう

恩智川をテーマに子どもたちに絵を描いてもらいます。川に生息している生物や未来の恩智川など、自由に絵を描いてもらうことで、近隣の子どもたちが川に対してどんなイメージを持っているのか、どんな川にしていきたいのかを知ることができます。子どもたちの思いを活動へと反映させていきましょう。



16

📷 フォトコンテストをしよう

まちを見る視点は人それぞれです。恩智川の美しい風景や変わったもの探し、写真に収め、みんなで見せ合しましょう。自分が持っていなかった視点から恩智川を見ることで、今まで気づかなかった発見があるかもしれません。みんなで共有することで、たくさんの魅力ポイントを探しましょう。撮影した写真をアルバムにまとめたり、展覧会を開催したりすると、魅力を発信することもできます。



17

🏠 魚の棲みかをつくろう

魚が棲みやすい環境ってどんなところなのだろうか。川に棲む生物の気持ちになると、どんな川になったら良いのかを考えることができます。「自分で考えてつくった棲みかに魚が来ているかな」と思い、川の様子を見に来る機会が増えてきます。川にたくさんの生き物がいる風景になると、多くの人が川に目を向け、川を汚しにくい環境にもなります。



18

🗳️ 宝探しゲームをしよう

子どもたちに宝探しのような感覚で、自分が気になったゴミを探してもらうことで、ゴミを拾うことが楽しくなるように仕掛けることができます。子どもたちの目線で集められたゴミには、意外な発見があるかもしれません。



19

🎣 魚釣りを楽しもう

自分の手で魚を釣ってみましょう。魚はどんなポイントに集まっているのか、どんな餌だったら食いつくのかを考えながら、川辺の生物を楽しむことを通して、「恩智川って面白い」と思ってもらいましょう。魚を釣りにが集まることで、ポイ捨てや不法投棄をしない、釣りを楽しむ人同士で川を見守る目を持つことができます。

20

🏃 マラソン大会を開催しよう

川の音や風の音、虫の鳴き声、涼しさを感じさせる川沿いはマラソンをするのに最適です。柏原市、八尾市、東大阪市、大東市と4つの市にまたがる恩智川は、隣の市にいけばまた変わった雰囲気を感じさせます。自分の住むまちと比べ、下流にはどんな影響を与えているかを知るきっかけになります。

21

環境教育をしよう！



暮らしや環境を守る性質を知る

恩智川があることによって、周辺地域の水害に対する暮らしの安全は守られています。恩智川には、防災機能を持っていることを周辺にすまう人たちが共通に理解することによって、河川を大事に保とうとする気持ちを育てることをめざします。

防災機能を学ぶこと、体験すること、いまの恩智川の水質や生物の状態、あらゆる自然環境を知ることを通じて、川を美しく保とうとする気持ちが、ゴミを捨てない・捨てにくい環境をつくることに繋がります。

出前講座で防災を学ぼう

恩智川のもつ水量を管理する機能や貯水機能があるおかげで、流域に住む人たちの暮らしは守られています。いまある恩智川のような姿になる前のまちは、大雨が降れば水害を起こす地域でした。

出前講座を通じて、どのような防災機能があるかを学ぶと共に、恩智川に対するありがたみを持ちましょう。



22

土のうづくり体験をしよう

河川が氾濫した時のことを考えて、住宅や店舗の浸水を防ぐことができるよう、土のう作り体験をしましょう。土のう袋の正しい紐の結び方はわかりますか？一度作り方を覚えておけば、万が一のことがあった時にも安心です。また、土のうは重いので一人でいくつも運ぶのは困難です。土のう作りと合わせて、参加者みんなで土のうリレーを実施することも効果的です。



23

? 生物・環境クイズをしよう

河川に生息する生物や草花をクイズ形式で子どもたちに教えていくことによって、恩智川に対する興味を持ってもらいましょう。清掃する時以外にも、恩智川のそばを通った時に、生物を探したり、咲いている花を探したりと、日常の中での恩智川との距離を近づけることができます。



24

💧 水質調査で水の綺麗度を知ろう

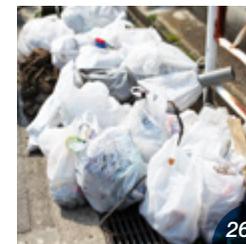
恩智川の水って綺麗なのでしょう？水質の綺麗度を色によって判断できるパックテストを使えば簡単に知ることができます。恩智川の水以外にも、水道水や他の河川の水を比べることで、より恩智川の水がどのような性質をもっているかが分かります。生活排水がどれだけ水を汚しているかを理解してもらうことで、水に対して意識を受けてもらえます。



25

Q ゴミの種類の調査をしよう

どのようなゴミが捨てられているかを知ることによって、ゴミを捨てる行為に対しての対策を考えます。集めたゴミはどこから流れて来るのか、粗大ゴミや特殊なゴミはどこに捨てられているのかを把握することで、市民みんなで監視の目を持ち、捨てにくい環境づくりを目指しましょう。



26

🐟 生き物を小学校で飼育しよう

小学校で魚の飼育をしましょう。自分たちが育てている魚がどこの川から来て、どんな環境で育つのかを知ることを通して、恩智川の存在を知ってもらいます。また、水辺の生き物の生態系を学ぶ環境教育にもなります。生物を知ることがきっかけに、今度は自分も恩智川の活動に参加したいと思ってもらいましょう。

27

🌸 菜の花の油をしぼろう

春が近づくと、河川敷が綺麗な黄色になる地域があります。恩智川流域に咲く菜の花を川のシンボルのように思い、大切に育てることで、花の咲く季節を楽しむことができます。菜の花は見て楽しむことができる他に、搾油をすることで菜種油にすることができます。見て、体験することによって、自然環境の楽しみ方を増やしましょう。

28

情報発信をしよう！



いっしょに活動を楽しむ仲間を増やす

一緒に企画から考えてくれる人、清掃当日に手伝いにきてくれる人、関わり方は様々です。プロジェクトと一緒に取り組んでくれる人が増えほど、恩智川は綺麗になっていきます。ひとり一人が参加しやすいように、清掃活動だけでなく、生物観察やまちあるきの実施により、多世代がプロジェクトに参加しやすい環境をつくることができました。それらのコンテンツを活かし、自分たちの取り組みを発信し、周知していくことで仲間を増やしていきましょう。

美化意識アンケートをしよう

川に対して持っているイメージや、清掃をした後の気持ちの変化を参加者に尋ねることによって、どのようなコンテンツに興味をもってもらえたかや、次回以降の活動内容の改善にすることができます。地域が何を求めているかを知ることによって、どのような取り組みをすれば効果的なのかを考えることができます。



29

のぼりを立てよう

清掃をする数日前から、のぼりを立てておくことで、清掃をする時期が近づいて来たことを、周辺住民に啓発、意識づけることができます。また、のぼりを立てている期間は、のぼりが外れたり、倒れたりすることなどが想定されるので、主催者となる人たちを中心に、定期的に状態を確認する必要があります。



30

👉 共通アイテムを着用しよう

多世代の人が多く集まるような美化活動では、参加者みんなが同じ色のタオルや軍手を着用することによって、お互いの連帯感や仲間意識を持たすことができます。また、活動に参加していない人に対して、統一感のある清掃風景を見せることによって、活動に興味をもたせ、声をかけてもらえるきっかけづくりになる他、活動への参加を促すことができます。



31

📍 見所マップをつくろう

桜や菜の花が綺麗に見える場所、古い歴史の残る神社や施設がある場所、美味しいお店がある場所など、魅力のポイントをまとめた地図があると、地域外の人でも、恩智川周辺を楽しみ、何度も訪れたいくなるようなきっかけをつくることができます。周辺に住まう人が集まり、地図をつくる事によって、住んでいる人でも意外と知らない場所や知識が得られるかもしれません。



32

📄 WEBでみんなに知ってもらおう

恩智川周辺地域に限らず、広く情報発信をするには、ホームページやFacebookやtwitterといったSNSなどのWEBツールを有効活用することで、清掃活動の開催日の告知や、普段の取り組みを多くの人に発信することができ、参加を促せます。

【ホームページ】<http://www.shoudo-osaka.org/onchi-riverproject/>



33

📌 店舗や学校へ声を掛けよう

目につく場所場所へのチラシやポスターの設置は、有効な手段です。多くの人が毎日訪れるスーパーを始めとした店舗、よく通るような地域の掲示板に設置しましょう。また、参加してほしいターゲットに合わせた広報をすることも効果的です。子どもを対象とした生物観察などは小学校へ、清掃に人手がほしいなら高校への呼びかけを行いましょう。

34

🗑️ ゴミアートをしよう

清掃活動で拾い集めたゴミを使って、アート作品をつくり、どんなゴミが捨てられているのかを知ってもらいましょう。アートの視点を取り入れることによって、清掃活動に興味が無かった人に目を向けてもらうことができるかもしれません。ゴミを見せるように発信することによって、ゴミ問題や恩智川のことを考えてもらいます。

35

恩智川クリーンリバープロジェクト
恩智川を使いこなす35のアイデアブック

発行日：2015年3月23日

主 催：恩智川クリーン・リバープロジェクト ワークショップに関わる地域住民の皆さん
大阪府、柏原市、八尾市、東大阪市、大東市

協力/編集：NPO法人環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク